



豊穣の里の純な祈り

【佐渡市 羽茂】 文 / 榎本国男

文化の来た道 vol.03



水無月15日は佐渡羽茂まつり
草刈神社・菅原神社の二社同時の祭礼は初夏の暑い晴天下
羽茂一円は紅白の横幕と紅提灯に彩られ
終日笛の音と遠く近くに賑やかな祭囃子の掛け声
草刈神社・菅原神社境内に神楽大獅子舞とつぶろさしが奉納され
いよいよ町を練り歩く
羽茂商工会議所前の広場は数多の人だかり
元気な神輿がもみあいながら迫ってくる
ソラコイ ソラコイ ソラコイ ソラコイ揃った掛け声
若者のはちきれそうな肩にかつがれた神輿
上に立つ子供が大きく扇子を横に振り調子づける
今度はラッセラ ラッセラの掛け声だ
神輿の過ぎた広場に赤鬼・青鬼の登場だ
お店の焼きそばの焦げ臭い匂いと煙
裏通りから黒い大獅子がやってくる
獅子頭をふりふり黒い木綿の被り物の下に聞き取れない掛け声騒がしく
20本の足が細かく動いている
およそ10メートルの巨大黒獅子
鳥帽子直衣の男は幣を持ち ゆっくりお祓いの構え
「天下太平 五穀豊穣 子孫繁栄 お先は伊勢の天照大神
後ろはスベリ スベリと弁財天のご開帳 ハンヤお獅子が起きまする」
口上よろしく獅子に向かって祝詞あがれば
獅子は目覚めて大あくび
お囃子は笛や太鼓に鉦と拍子木 獅子は浮かれて踊りだす
白昼堂々お天道様がぎらつく炎天下 演者三態の滑稽な舞
子孫繁栄 豊年祈願と邪氣払い 靈験一途のむきだしの賑やかさ
遠く大陸渡りの伎楽の名残を伝え
笛の音・鉦の音・観覧者のさまざまな声の中につぶろさしが終了
佐渡島の南側 対馬海流がもたらす豊穣の地
りんごもみかんも稔る おかげ柿の里で
純な祈りがめぐるめく「羽茂まつり」の白日夢
日が傾けば国仲平野は青さ一面の田園
金北山のいただきに輝く白い雲があった

「つぶろさし」は佐渡島で羽茂地区だけに残る奉納芸。遠く文禄の世(1592~1596)、地頭本間に仕えた茶坊主三四郎が茶道見習いに上方へ派遣されたおりに京より持ち帰ったという説が有力。以来、数百年、草刈・菅原両社大祭の山車につきものの芸として太神楽とともに奉納、伝え継がれて今にある。神社に奉納後、地区内の家々や商店を夜遅くまで門付して回る。昭和52年県無形文化財指定

編集後記

ル レクチエの幼木は、ゆっくりゆっくり成長します。そして実をつけるようになっても、自らの健やかな成長のために、木が養いきれない実は、落果や病気などで容赦なく淘汰していきます。それだけに収穫まで辿り着いた一粒ひとつは貴重で、愛おしさを感じます。栽培農家の間では、「桃栗3年、柿8年、ル レクチエのバカ野郎18年」という言葉もあり、その中には、ハードルが高く根気のいるル レクチエ栽培に挑む人たちの矜持が込められています。取材から20日ほど経った頃、栽培農家の高井さんを訪ねると、もうル レクチエの実は320gほどになり、まだ大きくなるとのこと。小説ができる頃は、台風の心配などながら収穫の準備に忙しくなるのでしょうか。それにしても、フランス生まれのル レクチエが新潟の大地に根付き、どちらかと言うと新しいことは苦手でも、こう決めたら最後までやりぬく辛抱強い県人気質に出会ったことは、天の配剤そのものです。(渋川)

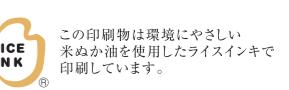
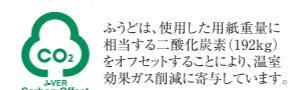
発行所

ふうど 編集室
まるごと印刷の
株式会社タカヨシ

■本社・工場 / 〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800
■東京支社 / 〒110-0005 東京都台東区上野1丁目13-3 MYビル2F TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884
■仙台営業所 / 〒981-0952 宮城県仙台市青葉区中山5丁目7-32 TEL (022) 303-1225 FAX (022) 303-6830
■名古屋営業所 / 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社4丁目3 ランドマーク一社501号 TEL (052) 753-8080 FAX (052) 753-8081
■オフィシャルサイト / <http://www.takayoshi.co.jp> ■商品サイト / <http://www.tk-print.jp>

「ふうど」はここに置いてあります

【新潟市】NPO法人 Made in 越後(中央区)、上古町商店街(中央区)、砂丘館(中央区)、佐渡汽船ターミナル(中央区)、朱鷺メッセ(中央区)、新潟NPO協会(中央区)、新潟絵屋(中央区)、新潟県政記念館(中央区)、新潟県庁広報展示室(中央区)、新潟県立図書館(中央区)、新潟市市民活動支援センター(中央区)、新潟市生涯学習センター図書館(中央区)、新潟商工会議所(中央区)、新潟市中央公民館(中央区)、新潟県立自然科學館(中央区)、旧小澤家住宅(中央区)、新潟市食育・花育センター(中央区)、新潟大学図書館(西区)、新潟ふるさと村(西区)、新潟せんべい王国(北区)、ビューフ島潟(北区)、亀田図書館(江南区)
【新発田市】新発田市立図書館、新発田市民文化会館、新発田市生涯学習センター【長岡市】長岡市立中央図書館【出雲崎町】越後出雲崎天領の里
【東京都】表参道・新潟館 ネスバス(渋谷区)、プリンスにいがた(中央区)



人がルレクチ工に近づく

つくる 幸運をいかす知恵と努力

畑の片隅から時代の真ん中へ

ルレクチ工が「幻の西洋なし」のまま過ごし、半世紀以上。ようやく表舞台

に登場する。減反・農産物の貿易自由化などの社会的背景から、昭和五十七年、新潟県がルレクチ工を特産品として育成するため園芸振興事業を開発。現県園芸研究センターを中心に栽培技術の研究が本格的に始まった。その結果、わずかこの二十年ほどで年間

生産量が十倍近くになり、ブランド化が実現。それにしても、栽培が難しいとされたきたルレクチ工が、どうして、これほどまでに普及したのか。県園芸研究センターを訪ねる。

灼熱の太陽の下、実験研究棟のガラスがギラギラ光り、露地の野菜たち

は高く夏空を突き、果樹園は濃い緑陰をつくり、珍しい栗の樹が巨大な実をたわわにつけ枝を下げていた。ルレクチ工の試験栽培を担当する根津潔さんは、「成り年とそうでない年の差が大きく、実がついても成熟するまで

に生理落果したり病気になったり、風に弱いなどの性質があり、それらの問題の対策として、さまざまな栽培技術が開発されました」。なかでも大きな成果が優良台木の選定と大量増殖技術だったという。長年にわたりルレクチ工栽培技術の研究に携わってきた松本辰也さんは「生理障害を防止できるマメナシを台木として選抜し、その台木の苗をクローリン増殖する組織培養技術を長い時間をかけ開発しました。この技術で高性能な台木に接ぎ



圃場に植えて3年目のルレクチ工。新たに開発中のジョイント栽培法で栽培されている。

木したルレクチ工の苗木を大量に供給できるようになりました。その本数は、二十年間に約三万本。この苗木の普及がなければブランド化が実現しませんでした」。優良マメナシは根の成長が旺盛で、従来から日本梨栽培で採用改善されてきたという。

口クチのろくでなし十八年

また松本さんは、ルレクチ工栽培技術の確立と普及ができた理由のひとつに、果樹栽培で長い間に培われてきた技術的土壤と、県人気質をあげる。「県内の梨の栽培農家は研究熱心な人が多く、ひとりで五種類以上の品種をつくりこなす技術があり、それがルレクチ工栽培にも応用されました。また、桃栗三年、柿八年、ロクチのろくでなし十八年」と言われるほど、今まで収穫が安定するまで時間がかかる品種です。小池左右吉氏によつてもたらされたルレクチ工が、幸いなことに新潟の気候風土に根づき、技術をもつ辛抱強い農家の人たちがいてこそ、のブランド化であります。ですからルレクチ工は新潟でしかできなかつた果物です。そのひとつひとつに新潟の歴史と苦勞が詰まっているんです」。また幻の西洋なしの存在をつきとめ、県の特産化を強く提唱した県果樹振興協

縁の下の力もち

県園芸研究センターが開発した台木の増殖培養技術を用い、ルレクチ工の苗木を栽培・供給している北越農事の研究農場を訪ねる。農場は越前浜砂丘の奥まった場所にあつた。培養を担当する若松敬子さんはじめ、スタッフの方々から試験管で行う台木の芽の大量増殖から苗木に仕立てるまでの順番を教えてもらう。なんと一本の苗木になるまで、プラスコの中で二年、苗木の養生で二年という年月がかかるそうだ。机の上には、ふたつの三角プラスコが置かれ、中に幼苗がぽつぽつ立っていた。まだ根がついていない台木の赤ちゃんである。

「優良系マメナシの親木の枝から、顕微鏡を使い芽を切りだし、何段階かの試験管培養を経て、ねずみ算のように苗の芽を増殖します。そして、それらの芽が自分で根を出す気になるように、いくつかの工程を経て、発根するのを待ちます。発根した芽をプラスコか



県園芸研究センターの圃場。
ここで栽培農家が剪定技術などを練習する。



根津潔さん
優良マメナシの台木にルレクチ工が接ぎ木されている。



無菌培養されている優良マメナシの幼苗。

熱い想いのリレー

県園芸研究センターの松本さんは、「レクチエへの熱い想いを継いだ根津さんは、その長い歴史のなかで、ひとり役に立てるのを追求して、たい」と抱負を語る。また自然と向きあう仕事について、「果樹は日々成長し、しばらく見ないでいると、あつという間に大きくなります。あくもしたい、こう後悔することになるので、毎日ちょっとでもいいから圃場にいくようにして、ます」と言いながら、ルレクチエの新しい栽培法の試験圃場への道を急いだ。

そこには棚がなく、夏の空が頭上に広がっていた。か細い若木が一列に並び、幹を同じ方向にたゆませ、伸びた枝は太い針金に固定されている。所々に実がなっていた。通常、ルレクチエは実がなるまで、苗木を植えてから七年くらいで、苗木を植えてから七年くらいで実をつけられる可能性があるという。ただ、このジョイント栽培法なら三年程で実をつけられる可能性があるという。木の仕立てがシンプルなので、剪定などがしやすいというメリットもあるといふ。では、もう技術は完成ですかといふ質問に「この圃場はあくまでも試験中。この技術が栽培農家に普及し、安定生産が実現した時には、技術が完成します」という答えが戻ってきた。根津さんの笑顔の向こうに、ルレクチエの未来が見えた。



高井清志さん

伝える 幸せを届ける果物

「変わりもん」と見られても

にくわないと生理落果するので安心できません。問題が起きたときに、この経験が勉強になるんだ」と肚を決め、経験を積むしかないんです」とも。今年は欲を抑え、例年より少なめに実がなるように摘蓄したので、いまのところ落果が少ないという。それで約四万個の収穫を見込む。それだけの数のルレクチエを収穫し、追熟し、さらに出荷梱包もすべて手作業でやる。大変な作業だ。

県内のおもなルレクチエ産地は、新潟市・加茂市・三条市・佐渡市。いずれも果樹栽培の古い歴史がある地域である。そのなかで新潟市の栽培農家の高井清志さんを訪ねた。昭和五十四年、旧白根市で発足した、西洋なし研究会当初のメンバーの一人である。稻作と内装業の兼業農家だったが、将来を考え、水田を整地しルレクチエに転作した。「果樹栽培はまったくの素人。栽培指導の技術者に来てもらい、指導してもらったり研究会で勉強したりしました。このあたりは桃とぶどうの栽培が盛んな地区で、ルレクチエをやるなんて「変わりもん」と思われましたが、今では作って良かったと思っていました」。苗木を植えてから、収入がとれるまで十五年。いちばんの苦労は「収穫後の追熟。一年間手をかけ収穫した実を、やり方ひとつで腐らしてしまいます。最初の頃はきちんととした追熟法がなく、皆で工夫してみました。が、うまくいきませんでした。安定したのは、ほんのこの五十年くらいです」。栽培の難しさについて「なにか気

園地に案内してもらう。四方には防風ネットがはりめぐらされ、棚から袋を被った実がたくさんなっていた。さっきまでの高井さんはこちらのことを気にする風もなく枝の状態をチェックはじめ、同行してくれたJAの高橋隆夫さんに、来年の花芽をだす場所をどうするかなど、しきりに話しかけていた。さっきまでの高井さんと、まるで違う厳しいプロの顔だった。



高橋隆夫さん

十%からの チヤレンジ

西洋なし研究会

高橋さんは西洋なし研究会の立ち上げから約三十年間、営農指導員という立場で栽培農家の人たちと一緒にルレクチエのブランド化に関わってきた。「研究会は、当時、三〇~四十代の農業の担い手たち十四人で発足。参加資格は十アール以上のルレクチエの作付けが条件。稲作の田んぼを園地にし、親父さんから散々意見されたメンバーもいましたが、みんなが日本初の産地づくりをめざし、熱いスタートでした。はじめの頃は、病気に弱く難易度の高いルレクチエの栽培法を研究会で勉強し、ひとつひとつ克服していく

ました。平成に入り安定的な栽培が見込めるようになると、高級路線の販売戦略で化粧箱やルレクチエを個包装する袋を作るなど流通面でも研究し、独自の出荷技術も確立しました。こうした努力の結果、ブランド化の一翼を担うことができました」。

小さな贅沢

J A全農にいがたで販売担当をする堀川純子さんに、あらためてルレクチエの魅力と特徴について聞いてみた。「甘くて糖度が高く、とろけるような果肉と独特な上品な香りが特徴です。これから十一月末頃から十二月に

出荷が始まり、一ヶ月ほどしか出回らない期間限定の果物です。ご自分へのご褒美に食べていただきたいですね。収穫後に四十日程度かけて追熟とう熟成期間を経て、みなさまにお届けしています。そんなゆったりした時が、ルレクチエに詰まっていることなど思い浮かべながら、のんびり味わっていたときです。また他の果物と違い、食べるタイミングが難しいのですが、ルレクチエから色の変化や香りで食べごろサインを出します。ご自分の五感で最高の食べごろを見極めたり、待つ行為そのものを楽しむのも小さな贅沢です」。

パステルイエローのボディから、幸せオーラを発散するルレクチエ。この魅力を知る人は、全国ではまだ少しもない。それもそのはずルレクチエの出荷額は、ラ・フランスの約一割。ブランド化が実現しても、産地としてのチャレンジはまだまだ終わりそうもない。

読者の声 ~前号を読んで~

洪水に対応された関係機関に感謝

昨年7月の新潟福島豪雨。家の前の道路も、29日の数時間だけでしたが、ヒヤッとする高さまで水があがりました。ほんの数km先が浸水被害でパニック状態だったのに不眠不休で対応された関係機関の大勢の方々に感謝します。また被害に遭われた沢山の方々の早期完全復旧を願っています。(新潟市 40代男性)

「正しく畏れる」大切さ

あたりまえのように眺めている信濃川も、それを守る人びとの熱いドラマがあるのです。壮大で難しいテーマの中で可愛いマスコットの存在が効果的です。県外の人のために、地名にルビがふられるなど細やかな心遣いが伝わる一冊でした。「正しく畏れる」は自然を相手に生きるのに、真に必要な言葉だと思います。(新潟市 50代女性)

JA全農にいがたで販売担当をする堀川純子さんに、あらためてルレクチエの魅力と特徴について聞いてみた。「甘くて糖度が高く、とろけるような

食べごろサインを出します。ご自分の五感で最高の食べごろを見極めたり、待つ行為そのものを楽しむのも小さな贅沢です」。

堀川純子さん



収穫されたルレクチエ。
これから追熟され11月末頃から12月にかけ市場にでまわる。

堀川純子さん



インフォメーション

新潟県農業総合研究所 園芸研究センター
北蒲原郡聖籠町真野177 TEL0254-27-5555

JA全農にいがた
新潟市西区山田2310-15 TEL025-232-1580

JA新潟みらい しろね果樹部会
新潟市南区次郎右工門興野795 TEL025-371-5055

北越農事株式会社
研究農場 新潟市西蒲区越前浜5792-17
TEL0256-77-2688

パティスリーカフェ オルレアン
新潟市東区もえぎ野3丁目8-7 TEL025-385-6605